

令和元年度 公益財団法人大分県体育協会第3回理事会

日時：令和2年1月16日（木）14時00分～

場所：大分県庁本館2階「正庁ホール」

理事

出席者 (23名)	麻生 益直 井上 倫明 三好 正昭 後藤 博美 真砂 昌史	工藤 利明 衛藤 賢 今富 寛二 竹井 信之 山口 誠	相馬 尊重 土谷 忠昭 榎 英樹 友岡 正春 渡邊 光廣	加藤 寛章 藤本 学 大場 俊二 中村 和好	安部 亮 松本 悠輝 後藤 修二 牧野 新吾
--------------	---	---	--	---------------------------------	---------------------------------

欠席者 (6名)	野見山裕治 花木 敏寿	工藤 啓記	佐藤 彰倫	牧 和志	神志那静清
-------------	----------------	-------	-------	------	-------

監事

出席者 (3名)	倉掛 賢裕	武石 哲也	矢部 正秋
-------------	-------	-------	-------

資格確認 渡邊総務部長が出席者理事23名で、定数の過半数であることから、本会定款第36条により、本会が成立することを報告した。

1. 開会のことば

渡邊総務部長が開会のことばを述べた。

2. あいさつ

公益財団法人大分県体育協会会長 麻生益直があいさつを行った。

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、役員の方々の御理解と御協力のもと、茨城国体に向けた競技力向上対策をはじめ、多くの事業を効果的に実施することができました。今年度も残り3ヶ月を切りましたが、本県スポーツ少年団最大のイベントである「大分県スポーツ少年団駅伝交流大会」をはじめ、各種事業の円滑な運営に努めたいと考えております。こうした中、年末・年始の高校スポーツでは、全国高校駅伝において、大分東明高校男子が県新記録の走りで6位に入賞、そして、春高バレーでは、東九州龍谷高校が、8年ぶりの優勝を果たし、「チーム大分」の大きな励みになるとともに、県民に元気を与える活躍でした。今月末から2月にかけては、第75回国民体育大会の先陣を切って冬季大会が開催されます。冬季競技は、厳しい練習環境の中での出場となりますが、「チーム大分」の誇りを持って臨んでいただきたいと思います。さらに、本年7月は、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開幕します。パラリンピックでは、陸上競技において、本県の中西選手が代表内定となりましたが、本県ゆかりの選手が一人でも多く出場することを期待しているところであります。昨年のラグビーワールドカップに続き、世界中が注目する

ビッグイベントが開催される本年は、スポーツ振興の観点から非常に重要な年になると考えられます。本会も、4月に「大分県スポーツ協会」への名称変更を控えており、新たなスタートに向け、各種事業に積極的に取り組みたいと考えておりますので、引き続き、皆様方の御協力をお願いいたします。

結びに、本日は、補正予算や表彰関係、本会への新規加盟などが主な議題となっております。限られた時間ではありますが、十分な御審議をいただきますようお願い申し上げます、あいさつといたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

議長選出 以下、進行の渡邊総務部長の説明

理事会規定第6条では、「理事会の議長は会長がこれにあたる」となっておりますので定款第35条により麻生会長に議長をお願いします。

また、議事録署名につきましては、定款第37条に出席した会長・副会長及び監事は議事録に記名押印するとなっておりますので、その旨よろしくお願い申し上げます。

以下、議長による進行。

3. 報告事項

- (1) 令和元年度事業報告について
- (2) 第74回国民体育大会成績について
- (3) 第39回九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技成績について
- (4) 全国表彰受賞者について
- (5) 各種大会成績について

伊藤事務局長が上記事項について一括して説明。以下、説明内容。

それでは3の報告事項(1)令和元年度事業報告ですが、昨年8月の第2回理事会での報告以降の事業について主なものを抜粋して説明いたします。

レジュメの1ページをお開きください。まず、第74回国民体育大会関係事業を説明いたします。No.1、8月30日、会期前実施競技(水泳・新体操・ビーチバレーボール)知事表敬訪問から始まりまして、No.5、9月20日の大分県代表団結団壮行式、No.6の茨城国体開会式前日に水戸市で行われたドクターズミーティング、No.7の総監督会議、そして、No.8、9月28日から10月8日にかけて「いきいき茨城ゆめ国体」本大会が開催され、チーム大分457名が参加いたしました。茨城国体終了後ですが、2ページNo.16、10月30日に工藤秀明スポーツ奨励賞選考委員会を開催し受賞者を決定いたしました。3ページNo.26、競技別強化担当者会議、いわゆるヒアリングを大分県競技力向上対策本部と合同で実施し、今後の競技力向上対策について協議いたしました。No.27、11月20日に大分県代表団反省会、工藤秀明スポーツ奨励賞授与式、大分県代表団懇談会を開催し、「チーム大分」は第75回国民体育大会での更なる高みへの挑戦を期して、一層の結束を深めました。

次に、スポーツ少年団関係です。1ページのNo.11、10月19日・20日に大分県スポーツ少年大会を開催し、団員間の交流を深めました。次に、大分県スポーツ少年団外傷・傷害防止担当者養成講習会ですが、2ページのNo.12、No.22、3ページのNo.35の計6

回の開催をもちまして、本年度の研修会を終えました。様々な角度から子どもの外傷・傷害防止担当者としての知識を御講義いただき、非常に有意義な講習会となりました。次年度は、さらに充実した講習会を開催していきたいと考えております。3ページ、No.30、本年2月11日に開催いたします駅伝交流大会の開催に向けて、11月29日に第1回実行委員会を開催いたしました。指導者研修会の事業につきましては、2ページのNo.17、スポーツ少年団指導者・母集団連帯研修会を開催、No.20、11月9日にガバナンス研修会を開催しました。競技団体、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブの関係者60名の参加に併せ、本会事務局職員も参加し「スポーツ団体における経理ガバナンス」の視点から研修を行いました。3ページNo.34、12月7日に日本スポーツ協会公認指導者を対象に資格更新義務研修会を開催しました。次に、No.28、11月23日に総合型地域スポーツクラブ交流会を開催し、体験ブースや盛りだくさんのプログラムを通して、交流を深めました。また、No.29、11月28日に第2回スポーツ医科学委員会を開催しました。今回はメディカルサポート部会員、研修部会員が同席し、各専門部会の活動報告がなされ、医科学委員との貴重な意見交換の会となりました。

その他の事業につきましては、記載の通りでございます。後刻御確認いただきたいと思います。事業報告は以上でございます。

次に、(2)の第74回国民体育大会成績について報告いたします。レジュメ4ページを御覧ください。1の総合成績は御覧のとおり、本県は921.5点を獲得し、天皇杯順位は第23位でした。また、九州における本県の状況ですが、3の九州各県総合成績比較を見ていただきますと、本県は九州ブロック大会では九州第2位の成績でしたが、国体では九州第3位の成績でした。

5ページを御覧ください。優勝した団体・個人の皆さん方です。最初に団体を紹介いたします。ボート競技少年男子ダブルスカルにおいて、大分県選抜チームが優勝を果たしました。なお、この記録は、決勝レースが荒天により実施されず、予選上位16チームによる準決勝の結果によるものです。

次に個人を紹介します。陸上競技少年男子A5000mにおいて、ダンカン・キサイサ選手が優勝いたしました。水泳競技競泳少年男子A100m自由形・50m自由形において、田中大寛選手が2種目優勝いたしました。水泳競技飛込少年男子高飛込において、山本馨選手が優勝いたしました。カヌー競技成年男子カナディアンシングル200mにおいて、森田考博選手が2年ぶり2回目の優勝を果たしました。同じくカヌー競技少年男子カナディアンシングル500mにおいて、米光陸選手が優勝いたしました。同じくカヌー競技少年男子カナディアンペア200m・500mにおいて、岩永紘明選手、荒金透音選手のペアが2種目優勝いたしました。空手道競技成年女子形において、大野ひかる選手が2年連続2回目の優勝を果たしました。同じく成年男子形において、西山走選手が2年ぶり2回目の優勝を果たしました。優勝種目数においては、今大会11種目と過去5年間で最高の数でありました。6ページは、入賞一覧です。すべての入賞者の紹介は省略させていただきますが、入賞した競技数は昨年を2つ上回り、種目数は、昨年を3つ下回っている状況です。7ページからは大分県代表団すべての成績一覧です。詳細な説明は省略させていただきますので、後刻御確認ください。大会終了後、各競技の現状分析、課題整理、今後の対策などを協議するため、県競技力向上対策本部と合同で、第2回ヒアリングを実施いたしました。現時点では、昨年の同時期とほぼ同じ力と判断しています。今後も、正確な分析、効果的な強化策を競技毎の状況に応じて徹底していき、目標を達成したいと考

えています。以上で第74回国民体育大会の成績についての報告を終わります。

次に、(3)の第39回九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技成績について説明いたします。レジュメは24ページとなります。本年1月29日から開催される第75回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会の出場権をかけて、九州ブロック大会が昨年12月7日に福岡県立総合プールのスケートリンクで開催されました。本県は成年男子種別に出場し、初戦、福岡県と対戦いたしました。なお、成年男子種別は代表権が4県ですので、初戦を勝てば代表権獲得となります。結果は御覧のとおり、0対23で敗退し代表権の獲得には至りませんでした。以上で第39回九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技成績についての説明を終わります。

次に、(4)の全国表彰受賞者について説明いたします。レジュメは25ページとなります。まず、永年にわたりまして、体育・スポーツの振興・発展に功績のありました方に対する文部科学大臣表彰でございますが、本年度は記載の通り3名の方が受賞されました。本会からの推薦はございませんでした。次に、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等表彰でございます。この表彰は資格取得後15年以上にわたり、スポーツの普及振興及び指導者育成等に尽力し、顕著な功績をあげた方々に対する表彰でございます。表彰されましたのは、永富脳神経外科病院内科医師で、アンチ・ドーピング啓発活動に尽力されている、安永昭ドクターでございます。次に、国民体育大会表彰でございます。この表彰は、国民体育大会に通算30回以上参加し、その発展に貢献したものに対する表彰でございます。表彰されたのは、大分県セーリング連盟の佐藤誠理事でございます。本年度、全国表彰を受賞されました方々に対しましてお慶び申し上げますとともに、今後ますますの御活躍をお祈り申し上げます。

次に、(5)の各種大会成績について説明いたします。レジュメは26ページから36ページにかけてとなります。今回の報告は、第2回理事会以降に開催されました各種大会成績を、中学生は全国大会ベスト8以上、高校生・社会人は九州・西日本大会ベスト4、全国大会ベスト8以上、国際大会はすべての成績でまとめています。本日は、全国優勝及び国際大会3位以上を報告させていただきます。

26ページ、陸上競技、第50回ジュニアオリンピック陸上競技大会において、大分市大在中学校の薬師寺新選手が男子共通ジャベリックスローで優勝いたしました。27ページ、日本グランプリシリーズ山口大会第16回田島直人記念陸上競技大会兼小学生・中学生・高校生育成強化陸上競技大会において、福岡大学の兒玉芽生選手が女子100mで優勝いたしました。28ページ、水泳競技、令和元年度東京都OPEN水泳競技大会において、トヨタ自動車の渡辺一平選手が男子200m平泳ぎで優勝いたしました。29ページ、バレーボール競技、第72回全日本バレーボール高等学校選手権大会において、東九州龍谷高等学校が優勝いたしました。30ページ、ウエイトリフティング競技、内閣総理大臣杯第56回全日本社会人ウエイトリフティング選手権大会において、赤松哲郎選手が、96kg級で優勝いたしました。ソフトテニス競技、JOCジュニアオリンピックカップ大会第26回全日本ジュニアソフトテニス選手権大会において、明豊高校の岩倉彩佳選手がU-17女子シングルスで優勝いたしました。31ページ、相撲競技、第8回世界ジュニア女子相撲選手権大会において、楊志館高校の山口結奈選手が女子60kg級未満級で3位入賞いたしました。32ページ、柔道競技、2019年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会及び、グランドスラム大阪2019において、アルソックの梅木真美選手が、女子78kg級で優勝いたしました。弓道競技、天皇杯第70回全日本男子弓道選手

権大会において、明豊中学・高校教諭の石川嵩選手が、近的競技で優勝いたしました。33ページ、ライフル射撃競技、2019年度全日本ライフル射撃選手権大会において、デンケンの八川綾佑選手が男子50m三姿勢120発で優勝しました。また、2019年度全日本社会人ライフル射撃競技選手権大会兼燃ゆる感動かごしま国体ライフル射撃競技リハーサル大会において、同じく八川綾佑選手が男子10mエアライフル立射60発で優勝、由布高校の三ヶ尻心選手が少年女子ビームピストル60発で優勝いたしました。34ページ、カヌー競技、2019年度SUBARU日本カヌースプリント選手権大会において、豊後木材市場の森田考博選手が男子200mカナディアンシングルで優勝いたしました。その他の成績につきましては資料提供をもって報告とさせていただきますので、後刻、御確認ください。以上で報告事項のすべての説明を終わります。

(麻生議長が、報告事項についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

4. 議事

- 議案1 令和元年度補正予算について
- 議案2 第39回九州ブロック大会冬季大会大分県代表団について
- 議案3 第75回国民体育大会冬季大会大分県代表団について
- 議案4 大分県体育協会表彰について
- 議案5 大分県体育協会加盟申請審査要項について
- 議案6 特定非営利活動法人大分県武術太極拳連盟の加盟申請について

【議案1 令和元年度補正予算について】

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下、説明内容。

それでは令和元年度補正予算について説明いたします。レジュメは37ページからとなります。今回の補正予算につきましては、本年度、すでに予算執行を終えている事業についてその実態に合わせて行うものに加え、年度途中で予算の変更があったものについて行うものでございます。本会の会計は、公益法人会計として、大分県スポーツ振興事業、大分県スポーツ少年団事業、大分県スポーツ普及・表彰事業の3事業の会計と、事務局運営に係る法人会計の4会計からなっています。それぞれの会計ごとの資料は、38ページから45ページにかけて詳細に記載していますが、わかりやすくするために、37ページのA3の概要版を使って説明させていただきます。恐れ入りますが、レジュメの方向を変えていただきまして、概要版を御覧ください。補正前予算額・補正額・補正後予算額の角カッコは大科目、丸カッコは中科目、カッコがないのが小科目の金額となっています。また、表の両端の小さな数字は行数を示しています。

まず、一般正味財産増減の部の経常収益、いわゆる収入の部です。9行目のスポーツ少年団登録料ですが、補正前予算額825万3千円に対しまして、9万8千800円減額補正、補正後予算額815万4千200円でございます。これは、登録者であります、指導者・団員併せて391名の減数によるものです。次に14行目の国体参加補助費ですが、補正前予算額1億4千944万4千円に対しまして、588万3千697円減額補正、補正後予算額1億4千356万303円でございます。これは、九州ブロック大会の参加者数を実態に応じて減額補正するものです。次に28行目のスポーツリーダー兼認定員養

成講習会ですが、補正前予算額55万円に対しまして、33万円減額補正、補正後予算額22万円でございます。これは開催予定市町のうち三市が自主開催事業となったためでございます。次に29行目の受取民間助成金ですが、補正前予算額194万3千円に対しまして、31万9千円減額補正、補正後予算額162万4千円でございます。これは、t o t oからの助成金減額と県スポーツ少年団駅伝交流大会に係わる協賛企業の契約が終了したことによるものです。次に30行目の受取負担金ですが、補正前予算額213万5千円に対しまして、14万9千912円減額補正、補正後予算額198万5千88円でございます。これは、各種大会・研修会の参加者の実態に応じて減額補正するものです。次に43行目の指定正味財産からの振替額ですが、補正前予算額34万7千円に対しまして、28万5千270円増額補正、補正後予算額63万2千270円でございます。これは今年度工藤秀明スポーツ奨励賞受賞者が多かったことによるものです。次に46行目のスポーツ振興協力金ですが、補正前予算額585万円に対しまして、15万円増額補正、補正後予算額6百万円でございます。これは、大分県ゴルフ場経営者協会様の御協力により、ゴルフ場利用者から徴収していただいた協力金の増収が見込まれることによるものです。次に47行目の広告募金ですが、補正前予算額77万5千円に対しまして、17万5千円減額補正、補正後予算額60万円でございます。これは、広報誌スポーツ大分に係わる広告契約が終了したことによるものです。その他の補正につきましては、すでに予算執行を終えている事業についてその実態に合わせて行うもので、参加者数の増減等によるものですので、詳細の説明は省略させていただきます。51行目、経常収益計につきましては、補正前予算額3億393万2千円に対しまして、633万7千763円減額補正の補正後予算額は2億9千759万4千237円となります。次に経常費用、いわゆる支出の部でございます。61行目、国民体育大会参加費、66行目の講習会・研修会費、76行目の表彰費につきましては、経常収益と同じ理由により、減額・増額補正となっております。77行目の上記3事業の事業管理費につきましては、補正前予算額2千219万9千円に対しまして、21万4千646円増額補正、補正後予算額は2千241万3千646円でございます。これは、給与手当、職員手当、法定福利費の増額、パソコンリース料の増額が主なものです。79行目の法人会計の管理費ですが、補正前予算額653万4千円に対しまして19万3千253円増額補正、補正後予算額は672万7千253円でございます。これは、給与手当、職員手当、法定福利費の増額、会長交代に係わる諸経費等の増額が主なものです。その他の補正につきましては、すでに予算執行を終えている事業についてその実態に合わせて行うもので、参加者数の増減等によるものでございますので、詳細の説明は省略させていただきます。80行目、経常費用計ですが、補正前予算額3億393万2千円に対しまして、610万9千976円減額補正の補正後予算額は2億9千782万2千24円となります。続いて86行目、当期経常増減額計ですが、補正前予算額0円に対しまして、22万7千787円減額補正の補正後予算額となり、この額が赤字見込額となります。最終行、正味財産期末残高につきましては、補正前予算額3千455万6千987円に対しまして、51万3千57円減の補正後予算額3千404万3千930円となります。

今回、赤字見込みとなりました要因は、経常収益の項では、スポーツ少年団登録費の減額、t o t o助成金等の受取民間助成金の減額、広告募金の減額、また、経常費用の項では、給与手当、職員手当、法定福利費の増額、会長交代に係わる諸経費などの増額が主な要因です。現時点においては、赤字見込みの状況ではございますが、残り3ヶ月で、通信

運搬費・印刷製本費・会場費などの経費削減と業務改善を行い、今後予定されているスポーツ少年団駅伝交流大会や体育協会表彰などでの事業内容を見直すなど、赤字解消に向けた努力をして参ります。以上で令和元年度補正予算の説明を終わります。御審議お願いいたします。

(麻生議長が、議案1についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

《上記の説明を踏まえ、麻生議長が議案1を議場へ諮ったところ全会一致で承認された》

【議案2 第39回九州ブロック大会冬季大会大分県代表団について】

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下、説明内容。

それでは、議案2の第39回九州ブロック大会冬季大会大分県代表団につきまして説明させていただきます。レジュメ46ページをお開きください。九州ブロック大会冬季大会大分県代表団の決定につきましては、県内予選後、参加申込みまでの期間が短く、理事会を開催するいとまがないことから、会長に事前承認していただき、選手団を派遣した次第でございます。本日は、改めてこの理事会で選手団について御審議をお願いいたします。役員といたしまして、団長に井原誠県アイスホッケー連盟会長、副団長に西本安広県アイスホッケー連盟理事長、総監督に加藤寛章本会専務理事、総務員は2名、選手団については、資料記載のとおり、監督1名、選手20名でございます。以上で第39回九州ブロック大会冬季大会大分県代表団につきまして説明を終わります。

(麻生議長が、議案2についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

《上記の説明を踏まえ、麻生議長が議案2を議場へ諮ったところ全会一致で承認された》

【議案3 第75回国民体育大会冬季大会大分県代表団について】

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下、説明内容。

次に、第75回国民体育大会冬季大会大分県代表団につきまして説明いたします。47ページをお開きください。スケート競技会ショートトラック競技は、2月1日から青森県三沢市で、スキー競技会は、2月16日から富山県南砺市で開催されます。本部役員といたしまして、団長に玉田輝義県スキー連盟会長、副団長に麻生純二県スキー連盟副会長、同じく副団長に三宅文子県スケート連盟理事長、総監督に加藤寛章本会専務理事、ほか総務員は2名でございます。旗手はスキー競技成年女子Bジャイアントスラロームに出場する松本奈帆選手です。監督、選手につきましては記載のとおりで、スケート競技は監督1名、選手1名、スキー競技は監督3名、選手13名でございます。以上で第75回国民体育大会冬季大会大分県代表団についての説明を終わります。

(麻生議長が、議案3についての質問を議場に諮ったが、特になかった。)

《上記の説明を踏まえ、麻生議長が議案3を議場へ諮ったところ全会一致で承認された》

【議案4 大分県体育協会表彰について】

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下、説明内容。

それでは、令和元年度大分県体育協会表彰について、説明いたします。レジュメは48ページからでございます。この表彰は、学校・地域または職域におけるスポーツの健全な普及及び発展に貢献し、本県スポーツの振興に著しい成果をあげた個人及び団体を表彰するもので、2月5日水曜日14時からレンブラントホテル大分で表彰式を開催するものでございます。表彰の種類及び推薦基準につきましては、71ページをお開き下さい。第4条にございますが、表彰の種類は「スポーツ功労者及び団体」、「スポーツ優良生徒」、「生涯スポーツ功労者及び生涯スポーツ優良団体」の3種類でございます。なお、「スポーツ功労者及び団体」につきましては、個人、団体、指導者の3部門になっております。推薦基準につきましては記載のとおりでございます。また、審査及び決定につきましては、第2条にございますように、本会の加盟団体及び本会が推薦する個人・団体を本理事会において審査し決定するものです。恐れ入りますが、48ページにお戻りください。本年度の候補者及び候補団体の総数ですが、スポーツ功労者及び団体では、個人の部は前年から16名増えて63名、団体の部は前年から5団体増えて11団体、指導者の部は前年から2名減って2名でございます。生涯スポーツ功労者及び生涯スポーツ優良団体では、生涯スポーツ功労者は前年から4名減って1名、生涯スポーツ優良団体は前年と変わらず4団体でございます。スポーツ優良生徒では、中学生の部では前年より7名増えて175名、高校生の部では前年より11名増えて273名でございます。次に各部門別の候補者でございます。レジュメ49ページからでございます。

最初に、スポーツ功労者個人の部63名でございます。一人一人の紹介は省略させていただきますが、競技別人数の内訳は、水泳9名、ボート1名、セーリング5名、陸上3名、テニス1名、ボクシング1名、レスリング2名、ウエイトリフティング3名、ハンドボール7名、自転車2名、ソフトテニス1名、柔道1名、卓球2名、相撲3名、フェンシング8名、弓道1名、ライフル射撃4名、スポーツクライミング1名、アーチェリー2名、空手道2名、カヌー4名となっています。

52ページを御覧ください。団体の部11団体でございます。個人の部と同じく詳細な説明は省略させていただきますが、競技の内訳は、水泳1団体、ボート1団体、バレーボール1団体、ライフル射撃2団体、ボウリング3団体、カヌー3団体となっています。

指導者の部につきましては、全国大会や国際大会で活躍したトップレベルの選手を育成している水泳競技の友岡俊介さん、カヌー競技の高木宏通さんの2名でございます。

53ページ、生涯スポーツ功労者でございます。永年にわたり中津市空手道連盟の要職を歴任する中、県民体育大会等で輝かしい実績を残し、大分国体では開催地の理事長として大会を成功に導いた中津市の矢津田博明さんの1名でございます。

続いて、生涯スポーツ優良団体でございます。平成15年に本県の総合型地域スポーツクラブで最も早く創立されたクラブで、子どもから高齢者まで幅広い世代のニーズに応じた教室やイベントを開催している、豊後大野市の「みえスポーツクラブ」、平成19年にクラブ設立以来、スポーツや健康づくりの場を創出し、健康づくりや生きがいがづくりの活動を行い、更に文化教室の開催も積極的に取り組んでいる、大分市の「NPO法人わいわい夢クラブ」、平成20年にクラブ設立以来、「誰もが気軽にスポーツや文化活動を楽し

む」をテーマに賀来校区全域で幅広い活動を行っている、大分市の「NPO法人賀来衆倶楽部」、平成20年にクラブ設立以来、スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなど多様な活動を展開し、大道校区のコミュニティの核となっている、大分市の「NPO法人おおみちふれあいクラブ」の4団体でございます。

次に、スポーツ優良生徒でございます。54ページからでございます。まず中学生の部ですが、54ページに県中体連から推薦のありました候補者の数を学校別の一覧にしています。41校から男子105名、女子70名、計175名でございます。55ページから60ページにかけて競技別の候補者を掲載しています。競技別人数の内訳は、水泳12名、陸上25名、サッカー13名、テニス8名、バレーボール12名、体操1名、新体操6名、バスケットボール21名、ウエイトリフティング1名、ハンドボール8名、ソフトテニス4名、卓球5名、軟式野球13名、相撲3名、馬術2名、柔道11名、ソフトボール6名、バドミントン11名、剣道8名、空手道3名、ボウリング1名、ゴルフ1名でございます。詳細な説明は省略させていただきますが、候補者名、所属、成績等については記載の通りでございます。61ページをお開きください。次に高校生の部でございます。県高体連、県高野連から推薦のありました候補者の数を学校別の一覧にしています。34校から男子143名、女子130名、合計273名でございます。62ページから70ページにかけて競技別の候補者を掲載しています。競技別人数の内訳は、水泳9名、ボート5名、セーリング10名、陸上28名、サッカー22名、テニス6名、ホッケー15名、バレーボール17名、新体操2名、体操2名、バスケットボール7名、レスリング4名、ボクシング1名、登山2名、クライミング1名、ウエイトリフティング5名、ハンドボール23名、自転車6名、ソフトテニス6名、卓球6名、相撲1名、馬術1名、柔道10名、剣道6名、フェンシング1名、バドミントン10名、ライフル射撃8名、ラグビーフットボール10名、空手道8名、カヌー12名、アーチェリー3名、なぎなた2名、ボウリング1名、少林寺拳法1名、ゴルフ3名、高校野球（硬式）11名、同じく軟式8名でございます。詳細な説明は省略させていただきますが、候補者名、所属、成績等については記載の通りでございます。以上、いずれの表彰も推薦基準を満たしておりますことを報告させていただきます。なお、例年のことですが、本理事会終了後に追加申請がある可能性がございます。その場合には、推薦基準を満たしているか否かを事務局で審査し、会長承認とさせていただきたいと思っておりますので、このことも併せまして御審議をお願いいたします。以上でございます。

（麻生議長が、議案4についての質問を議場に諮った。）

質問 井上 倫明 氏

表彰状の主な功績に大会名を記載する際、スポーツ功労者個人の部については国際大会優勝か出場だけではなく、入賞者には入賞順位を記載した方が、今後の励みになるのではないかと考えますので、ご配慮いただければと思います。

回答 伊藤事務局長

国際大会入賞者については、賞状に順位を明記するようにいたします。

《上記の説明を踏まえ、麻生議長が議案4を議場へ諮ったところ全会一致で承認された》

【議案5 大分県体育協会加盟申請審査要項について】

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下、説明内容。

それでは、大分県体育協会加盟申請審査要項につきまして説明いたします。72ページをお開きください。本会に加盟しようとする団体は、本会定款並びに加盟団体規程に基づき、加盟申請書を提出し、理事会・評議員会の決議を経て加盟することとなっています。加盟に関する定款並びに加盟団体規程につきまして、72ページ下段に掲載されているものが主な内容となります。これまで、加盟承認に係わる審査基準については、本会事務局内に存在していた内規により説明を行ってきた経緯がございます。今回、新たに本会加盟を目指す団体があり、今後は審査基準を明確にし、ガバナンスコードでも示されている組織運営に係わる情報をHP等で公表するなど、透明性を確保する観点からも、新たな要項を策定する必要があると考え、申請審査要項を御提案いたします。2ページ上段を御覧ください。

公益財団法人 大分県体育協会加盟申請審査要項（案）

- (1) アマチュアスポーツ団体であること
- (2) 組織、運営機構が整備され、健全であること
- (3) 全国統括団体があり、日本スポーツ協会へ加盟していること
- (4) 国民体育大会の実施競技（正式・公開）であること
- (5) 県内郡市の体育協会に原則として1/2以上加盟していること

※ 上記項目を総合的に判断し審査する。

なお、この要項は日本スポーツ協会加盟審査要項を参考に作成いたしました。以上が、公益財団法人 大分県体育協会加盟申請審査要項の説明でございます。御審議お願いいたします。

（麻生議長が、議案5についての質問を議場に諮った。）

質問 土谷 忠昭 氏

現在のスポーツ界の状況をみたときに、今後検討してほしいこととして、一つは、(1)のアマチュアという言葉は、今の日本スポーツ協会では使われていないのではないかと。もう一つは、(4)国民体育大会の実施競技であることとありますが、言い切ってよいのかということです。今のスポーツは、ニュースポーツやeスポーツなどを含み、幅広くなっています。スポーツ基本法、スポーツ基本計画の中にも、ニュースポーツやeスポーツが注目されるようにという表現があります。そのようなことを考えたときに、大分県体育協会が国民体育大会を大きな目的・目標または事業としていることは十分存じていますが、国体の実施競技以外の競技はアマチュアスポーツではないという捉え方をされないかという不安があります。私は言い切ることに不安を感じますので、例えば、国民体育大会の有無に関わらずなどの表現にするほうが、スポーツの自由度が高まるのではないかと考えます。以上の二つについて大分県体育協会のご意見をお聞かせいただきたい。

回答 伊藤事務局長

土谷常務理事が仰る通り、日本スポーツ協会も変わり際でありまして、多くの検討委員会が行われ、方向性を示しているところでもあります。正式競技、公開競技の方向性も示しているところではありますが、大分県体育協会といたしましては、現状の規約・規定を定めたく、日本スポーツ協会の方針が決まり次第、再度検討の場を設けたいと考えております。現時点では、現行のスポーツ憲章等を参考にしながら（１）から（５）を事務局として提案させていただきます。

質問 三好 正昭 氏

大分県体育協会の考え方を参考にしたいとお聞きします。先ほど土谷常務理事からもありましたeスポーツや今年実施されるパラリンピックの障がい者スポーツなど脚光を浴びてくるスポーツについて、大分県体育協会は現時点でどのような位置づけで考えているのかをお聞かせいただきたい。

回答 伊藤事務局長

現時点になります。日本スポーツ協会でもeスポーツの加盟について多くの審議がなされ方向性を示そうとしております。大分県体育協会も独自性を持った考え方が必要にはなってきますが、本会の上部組織である日本スポーツ協会の意向を認識した中で、本会の考え方・立ち位置を定め、また、県政の在り方を鑑み、総合的に判断しなくてはならないと考えております。まずは、日本スポーツ協会の答申が明記された後に、本会の方向性を定めていきたいと考えます。

《上記の説明を踏まえ、麻生議長が議案5を議場へ諮ったところ全会一致で承認された》

【議案6 特定非営利活動法人大分県武術太極拳連盟の加盟申請について】

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下、説明内容。

特定非営利活動法人大分県武術太極拳連盟の加盟申請について説明いたします。レジュメ73ページと別添資料「特定非営利活動法人大分県武術太極拳連盟について」を併せて御覧下さい。別添資料の1ページ～21ページは、大分県武術太極拳連盟から提出された資料を掲載し、22ページ～32ページにかけては、本会定款並びに本会加盟団体規程を掲載しています。

始めに別添資料1ページを御覧ください。この度令和元年12月19日付で、特定非営利活動法人大分県武術太極拳連盟から本会への加盟申請書が提出されました。

続いて、レジュメ73ページを御覧ください。大分県武術太極拳連盟の概要について御説明いたします。名称は「特定非営利活動法人大分県武術太極拳連盟」沿革ですが、平成2年「大分県武術太極拳連盟」結成された後、平成21年「大分県武術太極拳連盟」商標登録、平成27年「大分県武術太極拳連盟」NPO法人格をそれぞれ取得されています。別添資料13ページを御覧ください。役員は、会長衛藤征士郎氏、副会長千鳥安雄氏、理事長二宮早百合氏、その他の方々は掲載の通りです。

別添資料15ページを御覧ください。会員数は、県下20団体に734名となっていま

す。支部組織は、レジュメ記載の通り、11の市に県連支部組織があり、その内、8の市が市体育協会に加盟しています。別添資料20ページ・21ページを御覧ください。財務状況ですが、2018年度収支決算書、2019年度収支予算書を掲載しています。会費・検定料・講習会受講料などが、主な財源として運営されています。次に備考に記載していますが、大分県武術太極拳連盟の全国統括組織は、公益社団法人日本武術太極拳連盟となります。平成2年に日本オリンピック委員会、平成3年に日本体育協会にそれぞれ加盟しています。47都道府県に支部組織があり、その内44都道府県が県体育・スポーツ協会に加盟し、富山県、千葉県、大分県の3県が未加盟となっています。また、令和元年茨城国体から、令和8年の宮崎国体まで国民体育大会の公開競技として採用されることになっています。

続きまして、本会への加盟要件について説明いたします。本会定款では、第5条で、「この法人は、次の各号の一に該当するものを加盟団体とする。(1) 県内におけるスポーツを各競技別に統轄するスポーツ団体であって、この法人に加盟したもの第6条では、この法人に加盟しようとする団体は、理事会及び評議員会において、理事総数及び評議員総数の3分の2以上の同意を得て加盟することができる。と定められています。また、加盟団体規程では、第3条で、定款第6条により本会に加盟しようとする団体は、代表者が次の書類を本会会長に提出しなければならない。と定められています。

以上の定款並びに加盟団体規程を踏まえ、先ほど議案5で大分県体育協会加盟申請審査要項について御承認いただきましたので、この審査要項の観点で審査下さいますようお願い申し上げます。

それでは審査要項に基づき御説明いたします。審査項目(1)「アマチュアスポーツ団体であること」については、大分県武術太極拳連盟は、プロスポーツ選手が存在せず、茨城国体(公開競技)には、監督1名、選手1名を派遣したアマチュアスポーツ団体であります。

審査項目(2)「組織、運営機構が整備され、健全であること」については、大分県武術太極拳連盟 定款第3条で、この法人は、大分県における武術太極拳の普及および発展を促進し、本県スポーツの振興と県民の健康増進を図り、もって地域社会の健全発展に寄与することを目的とする。とあり、平成27年にNPO法人格を取得しています。また、別添資料1ページ～21ページには、本会加盟団体規程第3条により提出された、組織、運営機構の整備状況に関する資料を掲載しています。事務局で精査した結果、組織、運営機構とも整備され、健全であると確認いたしました。

審査項目(3)「全国統括団体があり、日本スポーツ協会へ加盟していること」については、全国47都道府県に連盟支部組織をもつ、公益社団法人日本武術太極拳連盟があり、平成3年に日本体育(スポーツ)協会へ加盟しています。

審査項目(4)「国民体育大会の実施競技(正式・公開)であること」については、令和元年茨城国体から、令和8年の宮崎国体まで国民体育大会の公開競技として採用されることになっています。

審査項目(5)「県内郡市の体育協会に原則として1/2以上加盟していること」については、大分県内17郡市中8市に加盟済み(大分市、別府市、中津市、臼杵市、竹田市、豊後高田市、豊後大野市、佐伯市)であり、1/2以上ではありませんが、現在も他郡市に加盟申請を進めている状況であることを申し添えます。

以上が、審査要項に基いた説明となりますが、大分県武術太極拳連盟では、県体育協会

加盟を機に、県内で更なる普及拡大を目指し、今後も国体出場を目指したいということがあります。加盟の可否について御審議お願いいたします。

(麻生議長が、議案6についての質問を議場に諮った。)

質問 土谷 忠昭 氏

申請書には、NPO法人となっており、規約には特定非営利活動法人となっているが合わせなくてよいのか。

回答 伊藤事務局長

内閣府のHPを見ますと同等の書き方をしており、また、申請団体に確認したところ、同じ扱いであると確認しておりますので受理しております。

《上記の説明を踏まえ、麻生議長が議案6を議場へ諮ったところ全会一致で承認された》

以下、伊藤事務局長の説明

それでは、御承認いただきましたので、今後の手続きについて御説明いたします。今回、理事会で承認されましたので、次は、評議員会に諮り、評議員総数の2/3以上の同意が得られれば正式に加盟承認となります。そうなった場合、別添資料31ページの現行の加盟団体規程に武術太極拳連盟を加える必要があります。次回第4回理事会と臨時評議員会は、同日に開催予定でありますので、午前開催の第4回理事会であらかじめ規程の改定を承認いただき、午後開催の臨時評議員会で加盟が承認された場合に、加盟団体規程を変更するという進めさせていただきたいと思っております。

5. その他

(1) ロゴマークについて

伊藤事務局長が上記事項について説明。以下、説明内容。

大分県スポーツ協会ロゴマークについて説明いたします。前回第2回理事会において、本会ロゴマークについて御審議いただき、「豊後梅マーク」を基調としたデザインで、本会ロゴマークを定めることで決定させていただきました。その後、デザイン業者と調整を行っていますが、「豊後梅マーク」を基調としたデザインと、もう一方で新たなデザインの案も出てきている所です。今後、新しいデザインを提案することになりましたら、皆様方には改めて御提案させていただきます。以上がロゴマークについて経過報告です。

6. 閉会のことば

渡邊総務部長が閉会のことばを述べた。

令和2年 月 日

会 長 麻 生 益 直

副会長 工 藤 利 明

副会長 相 馬 尊 重

監 事 倉 掛 賢 裕

監 事 武 石 哲 也

監 事 矢 部 正 秋